

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームはごろも(ユニットⅡ)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500553		
法人名	社会福祉法人 衣川会		
事業所名	グループホームはごろも(ユニットⅡ)		
所在地	岩手県奥州市衣川古戸45		
自己評価作成日	平成31年1月11日	評価結果市町村受理日	平成31年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&kyosyoQi=0372500553-00&ServiceQi=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成31年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その方の気持ちや思いを大切に普段からコミュニケーションを沢山とれる雰囲気作りを行っている。認知症状により不穏状態の時も、その方の思いや行動の裏側を理解し、寄り添うケアを大切にに関わりを持つように心がけている。
穏やかな環境と地域の特性、地域の方々の協力を得ながら生活できる雰囲気は他にはない特徴であると考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、特別養護老人ホーム、診療所或いは市の支所等が隣接し、以前から福祉、医療、保健の連携のもと、地域住民の健康や福祉増進を進めてきた地域に所在している。常に職員の介護技術の研鑽を重ねるとともに、事業所の具体的な介護事業の年間目標を作成するなど、利用者に対する介護サービスの向上が図られている。特に、事業所の理念「ありのままのあなたに寄り添います」を実践するため、利用者の地域への継続した思いを支援するとともに、家族や住民等との繋がりがりや相互交流を大切にしながら、一人一人の個性に合わせた、その人らしい生活を安心して継続できるよう良質で細やかな介護サービスの提供に精力的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 30 年度

事業所名 : グループホームはごろも(ユニットⅡ)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ会議にて入居者の生活状況についての検討を行い日々の生活において質のあるケアを心掛けている。 また、理念を目的のつく場所へ掲示し意識付けを行っている。	事業所立ち上げ時に、スタッフ皆で話し合い、利用者の今までの生活と変わりなく暮らせる様にとの思いから「ありのままのあなたに寄り添います」を理念に掲げ、ホールや玄関に掲示し職員間で共有しているほか、年度毎に重点目標を定め理念の具体的実践を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアを定期的に受け入れ交流を図る。同法人での慰問の際は参加し交流を図る。 理髪をなじみの所へお願いし定期的に来所いただいている。 地域開催の認知症交流会への参加予定であったが、体調不良者がおり参加見合せている。	ボランティアとして、地域の舞踊団の踊り、大正琴の演奏、みずき団子飾り、中学生による吹奏楽の演奏慰問を受け入れているほか、法人事業所全体への保育園児の訪問、小学生の学習発表会への利用者の参加と活発に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	独自の活動は行っていない。 認知症研修受講職員が相談などがあつた場合助言を行うことは可能。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活状況、行事報告を定期的に行っている。新入居者状況の報告において、環境に慣れないことに対して家族代表の方などからご意見アドバイスをいただきケア方法に活かす。また、行事の提案をいただく。	運営推進会議は、隔月に開催され、事業所の利用者や活動状況等を議題に協議しているが、外部の構成員が市総合支所の担当課長と近隣住民のみのため、日常の活動報告を中心とした会議になっている。	運営推進会議は、事業所の応援団的役割も期待されており、会議の構成メンバーに地域の区長や町内会長或いは民生児童委員等の参画を得て広範な意見を伺い、事業所活動に生かされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人施設と連携を図り必要に応じ連携を図っている。	市主催の集団指導会には毎回出席し、介護事業に係る情報を得ているほか、運営推進会議には総合支所の担当課長が委員として毎回意見を頂いている。介護認定の更新時には、調査員と家族が来訪し、地域ケア会議では法人の施設長が出席し活発な交流を図っている。市主催の会議の内容も回覧で職員に周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	検討担当を設け学習会や日頃のケアでの問題提起を行っている。	法人全体の身体拘束禁止に関する会議に出席しているほか、事業所では各ユニットから職員を1名ずつ出して委員会を開催し、研修会も実施している。職員会議ではスピーチロックについても話し合っている。玄関の施錠は夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習や研修を通し防止に努めていきたいと考えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習機会を持ちたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に改定時など説明文書のみならず対面での再締結を行い不明点について詳しく説明するなどの対応を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議で利用状況、活動状況を報告し家族の意見を聞く機会を設けている。月広報を発行し運営状況の開示と、運営推進会議において生活の様子等を報告している。	年1回、ケアプラン更新時に家族に説明する際に、併せて意向、要望等を広範に聞く機会を設定している。随時、来所された際にも要望等を聴いている。毎月、小口現金の使用実績や広報誌等を郵送する際に、利用者の近況報告も含め家族にお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期の会議において、改善などの意見を吸い上げ検討し反映する機会を設けている。またスタッフ連絡ノートで連携を図るよう努めている。	年1回の人事考課や月2回のスタッフ会議で職員からの意見要望等を聴いている。休憩室への暖房機の設置、シーツ交換日の変更調整など、職員の意見・要望を具体化することにより、職員が働きやすい環境づくりや改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し実地している。個々の家庭状況を考慮し勤務表を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じ研修への参加を行う。また、定期会議においてケース検討、内部研修の機会を設けケアを考える機会を設け一人一人の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる奥州地区グループホーム協会の定例会へ参加し研修や意見交換の場を確保している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報の収集を行い事前にケース状況を把握し、入居時にはこまめに観察し新しい生活環境へ慣れていただくための関係性作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定の連絡、その後の連絡、契約時に困っていること、今後の不安などお聞きするなど関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時の状況により必要とするサービスを助言している。また、入居決定時の状況確認の際にどのような関わりが必要か確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一定の距離間や関係性を保ちながらも、お茶を一緒に飲んだり、時には食事を一緒に食べたり、作業を一緒に行うなど関係性作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報誌を月1度発行し生活の状況をお伝えしている。また、必要に応じ連絡を入れるようにしている。介護保険更新時にはサービス担当者会議を開催し、お互いの要望や支援の協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の理髪店に定期的に依頼し行っていた。また、必要に応じ買い物支援を行い地域に出向くなどの対応を取っている。	近所に住んでいた馴染みの方が診療所やデイサービスに来た際に、よく事業所に寄って近況を話してくれている。地元商店でおやつを買いたいと希望すれば車で一緒に出掛けている。馴染みの理髪店や美容室に行く方も数名いるが、最近では近くの理髪店が訪問内容で対応してくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶時間には一緒に過ごすように声掛けを行いコミュニケーションや話題を提供し交流を図るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係機関、ご家族からの問い合わせがあれば相談対応に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションにおいて希望や意向を聞き出すかわりに努めている。また、定期会議において検討する機会を設けている。計画書作成時本人の意向を聞き出し反映させている。	思いを言い出せない利用者には、職員が関わりを深めその思いを感じ取れるよう努めている。利用者が現役時代立ち返れるよう得意なテーマを預け、草取りが上手な利用者には事業所の周囲の草取りに同行するなどして、これら利用者の思いを連絡ノートに記入し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集において情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしを観察し把握に努めている。また業務日誌やケース記録において情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険更新時にはサービス担当者会議を開催し意見を反映するよう努めている。また定期的な評価や定期会議において検討している。	半年に1回の介護計画見直しの際には、ケアマネが、ケース記録、日誌、居室担当職員から情報収集し、その後、介護計画の変更案を施設長と協議したうえで、家族等の意向、要望を確認し了承をいただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケース記録、連絡ノートを利用し情報を共有しており、定期会議において検討する機会を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の要望や相談になるべく対応できるよう支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア依頼や書道講座開設など地域の方々の協力を得ており、楽しみや意欲向上に繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医への対応を取っている。衣川診療所受診の際はこちらで対応しているが、それ以外の受診の際は、医師に情報提供しご家族に対応していただいている。	利用者の17人が隣接の衣川診療所で受診しているほか、前沢の泌尿器科、水沢の精神科に通院する場合は家族が付き添っている。受診結果は、通院対応票に記録し、家族が来訪した際に確認してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化時や急変時などは併設している特別養護老人ホーム看護師と連携を図り対応している。また、必要に応じ協力医療機関との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には入居中の状況報告を家族、医師と情報の共有を図り、入院中の経過、退院時には医師から生活の留意点など共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の時点において、契約の終了の説明とパンフレットの利用対象者の説明をさせていただいている。重度化時には、現時点での状況の説明を行い、次の生活を考えるべく対応をとりながら他サービス機関への相談援助を行っている。看取りは現在行っていない。	事業所としての重症化等への対応マニュアルは作っていないが、自力での食事が困難、介護度が4か5に変更又は全介助等になった場合には、家族等へ相談しながら、特別養護老人ホームや医療機関等の選択を協議している。利用者の転倒や出血などの場合には、隣接の特別養護老人ホームの看護師から助言や協力をもらっている。	利用者の重症化等への対応方針を併設事業所の看護師の役割を含めてマニュアル化することにより、利用者や家族、或いは職員の不安解消が期待されます。早期に、事業所としての対応方針を関係者で共有する取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを目のつく場所に置き対応している。併設している特養看護師の指示や協力医療機関の指示により対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している施設と合同で訓練を実施している。	市のハザードマップでは危険区域に指定されていないが、避難所として近くのセミナーハウスや地区センター等を想定している。毎回、隣接の特別養護老人ホームと合同の避難訓練を実施し、地域防災協力隊として、近隣の5名の方々が避難等に協力いただいている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に不穏な状況の場合は、本人の意思を尊重しつつ言葉の裏には何かしらの意味があることを考えケアにあたっている。また、普段からの信頼関係作りに努め踏み込んだ声掛けができる対応作りに努めている。	事業所として、今年1月に個人情報やプライバシー尊重に関する研修を実施したほか、日頃から居室へ入る時のノック、トイレに誘導する際の声掛けの言葉遣い、入浴時の異性介助などに配慮して介護している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定ありきの声掛けではなく、選択できる声掛けを心掛けるようケアにあたっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思を尊重しつつも生活不活発状況を招かないようある程度誘導ながら、本人の意思を尊重した関りを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りやクリームを塗るなど必要に応じ声掛けを行っている。また、着替え衣類を一緒に選ぶなど取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを伝えるとともに、食材調理や後片付け、清掃と一緒に取り組んでいる。また、音楽をかけるなど食事の雰囲気作りに取り組んでいる。	法人の栄養士が献立を作成し、主菜は法人本部で調理し、事業所では職員がご飯と汁物のみを調理している。行事食として、ちらし寿司、もち料理、お花見弁当(外注)を提供するほか、おやつとしてケーキを焼くなど食事を楽しんでもらう工夫をしている。利用者の希望で食材調理、テーブル拭き、食後の後かたづけ等を担当している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は毎食確認し体調管理を行っている。水分は一日1500ccを目標に摂取している。必要に応じトロミやゼリー嗜好に合わせ選択している。食事を摂取できるよう都度検討し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけを行い毎食後歯ブラシ、歯間ブラシ等で口腔ケアを行っている。夜間入れ歯の方は、洗浄剤を使用している。必要に応じ歯茎ケアを歯科通院にて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンやしこぎを確認観察しながら適時誘導を行い自力排泄を促している。夜間など安心して排泄できるよう尿器やポータブルを使用し対応している。また頻尿、便秘の方は医師と相談し服薬などで排泄が億劫にならないよう支援している。	排泄の自立が3人、全介助は1人、他は各活動の終了時や排泄チェック表により職員が声掛けして介助しているが、18名全員が、日中はトイレを使用している。夜間のポータブルトイレの使用者は2名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を確保しながら、毎日の日課として体操やレクリエーションを通し自力排泄を促す取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	タイミングや自由な入浴には至っていないものの、湯温調整や入浴形態の対応、拒否時など無理強いない対応を取っている。また必要に応じ清拭などの対応を行っている。	3日に1回の割合で利用者の入浴を介助しているほか、入浴を嫌がる利用者には、丁寧に話を聞いたり、順番を変えたりと工夫して対応している。入浴剤は使用していないが、脱衣場にストーブを設置したり、羞恥心の強い利用者にはタオルで被ったりして入浴を楽しむ配慮を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし安眠できる関わりを心掛けている。また、生活リズムに合わせて休息できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や通院記録を日誌に記録し情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	清掃、食器拭き、調理、洗濯物等、生活活動を共同で行う雰囲気や声掛けを行い仕事や役割のある生活を送るよう心掛けている。普段より日常会話や歌、笑いのある雰囲気作りを心掛けコミュニケーションを図るよう努め、生活意欲が向上できるよう雰囲気作りを心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散策や外での活動を日常的に行い外気にあたる機会を作っている。また要望時家族や個別での買い物、外出支援を行っている。	春から秋の時期、晴天を選んで事業所周辺を散歩しているほか、裏庭にミニ畑があり枝豆、トマトや朝顔を植えて楽しんでいる。花見等のドライブは、前沢の公園、毛越寺や達谷窟等に行く場合もあり、秋には稲刈り風景を見に行くなど、利用者の外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理ではないものの、預かていることを伝え買い物の際など一緒に支払うなどの対応で、自分の金銭で支払ったという気持ちを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時取次を行うなど対応をとっている。また、荷物配達があった場合など電話をかけ相手先との交流が図れるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅のような環境ではないものの、共有スペースとしての動線を確保し、安心して過ごせる空間作りを行っている。また、表示、掲示物、装飾物など幼稚にならないよう注意している。	共用スペースは床暖房の効いたゆったりとした食堂兼フロアーの設計になっており、壁面には切り絵や習字を飾ったり、利用者の歌声が聞こえたりし、昼食後には、じゃんけんや衣川歴史カルタ取りに興じ、笑い声が絶えないよう職員が支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数人で座れるソファや個別ソファ、和室などある程度目隠しになる空間を配置し、共有スペースでも過ごせる環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に合わせ馴染みの物を持参して構わないことを伝え、時計や写真、位牌、テレビ、ラジオなど持参されている。室内の清掃や整理整頓を決まった曜日に行い清潔を保つよう努めている。	利用者の居室は、ベッド、箆笥、クローゼット、洗面台が設置しており、窓が大きく明るい。利用者の私物は整理整頓され清潔感がある。壁に家族みんなの写真や記念写真、カレンダーが飾られ、居心地のよい生活環境となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室入口、下駄箱等に表示を行い 混乱のないよう環境作りを務めている。月一 度安全確認日を設け確認を行っている。		